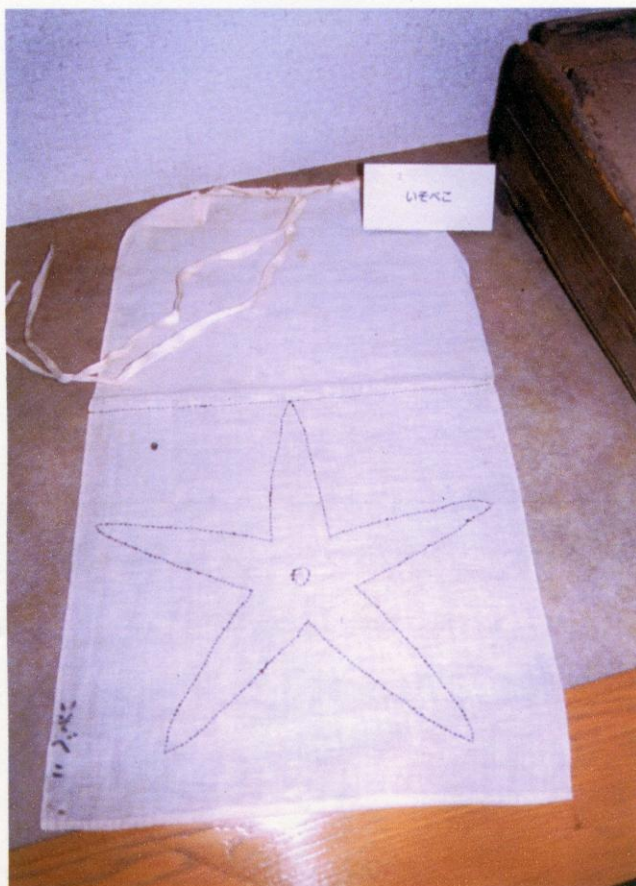


九州の海女の里、 鐘崎・岩屋を訪ねて



報告者
川口 祐二

九州の海女の里、鐘崎・岩屋を訪ねて

— 錦秋の海、玄界灘は波高し —

● 訪ねた日 08, 10, 24~25

1) 鐘崎で

広びろとした鐘崎の港に秋の風が吹き抜けた。あちこちに人がいる。あとでわかったことだが、その日、10月24日は朝から海が荒れて休漁、そのため漁師たちは網の整理などの仕事で、陸（おか）にいたのだった。

埋立地の一角に宗像市民俗資料館が建つ。私にとっては再訪で、もと館長の中村清さんと会う約束ができていた。隣町にある県立水産高校の教員であった人。



写真 1 宗像市民俗資料館正面玄関



写真 2 鐘崎漁港の昼下がり 手前はイカ釣り漁船

織幡神社へ行く。中村さんの案内である。沈鐘公園があった。ここに釣鐘の形をした、大きな岩が記念碑のように置かれている。

参道をはさんで鐘崎の海女の石像がある。次は横の碑文の一部。

特に潜水の技術に優れた鐘崎海女は「西日本の海女発祥の地」として有名である。海女の出稼地であった能登、長門、壱岐、対馬には枝村ができた。

しばらく進むと、質素な祠があった。恵比寿さんだ、と中村さんは言う。「えべっさん」と言った。30cmほどの長さの木の枝が3本置かれている。さい銭箱のような箱の上を、その木で叩いてお参りするの、この海女たちの慣わしであった。そのそばに小さな祠が2つあり、それらは海女の守り神であり、根岳さんと言われている。



写真4 海底から釣りあげられた巨大な石。重さ8トンある



写真4 海女の石像



写真5 恵比寿さんの前に置かれている木の棒。これで箱を叩いて参る



写真6 その隣にある根岳さん

— 前略 —

大きく変わったのは海女が3人（昭和63年《1988》11月現在）にまで減ったことで、西日本におけるアマ漁労の一大センターとして知られた鐘崎から海女の姿が消える日も、それほど遠くはななかり。海女の数は大正5, 6年（1916,7）ごろ200人、昭和9年（1934）ごろ70人と漸減し、今日にいたるが、社会的背景を別にしていえば、アマ漁労衰退の要因は、楠本正が指摘するように、地先漁場の狭小に帰すると考えられる。

— 以下略 —

『筑前鐘崎漁業誌』から

資料館は宗像市と合併する前の玄海町のときできた施設で、展示があかぬけしており、固苦しさがない雰囲気満ちている。ここに福岡県指定の文化財がある。海女の磯着などそれぞれ古い時代の海女漁業を偲ぶ上で大変貴重なものである。

鐘崎海女の起源については、武内宿禰が三韓からの帰りに朝鮮済州島の海女を連れて、鐘崎で婦女子に海女の技術を教えたという説、また、ほかには、遠洋漁業に出た鐘崎の漁師が済州島の海女と結婚して連れ帰ったという説などがあり、何れにしても鐘崎の海女の起源は相当に古い。

指定を受けたものは、「海女の用具壱括」となっている。昭和35年12月21日の指定である。品名は1あたまかぶりから、10いそひばちまで、10種類である。

(添付のコピーを参照されたい)



写真7 きりがいと水めがね



写真8 いそじゅばん



写真9 あわびぶくろ



写真10 あたまかぶり



写真11 弁当箱



写真12 いそひばち



写真 13 あわびがね



写真 14 いそべこ

特に興味を引くのは、「いそべこ」である。これは、いわば海女が着けた「ふんどし」である。布の端の方に星形のようなヒトデ（タコノマクラともいう）を形どった図案を黒糸で刺してある。魔除けであるといわれているが、これは、志摩の海女が貝紫で染めるセーマン・ドーマンといわれる印と、どこか共通するところがあって興味がわく。男とは逆で、海女は前からうしろへと布をまわし、尻の方で端を垂らした。これなど、天下の文化財の中でも傑作といっではばからないだろう。



写真 15 正月のしめ飾り



写真 16 対馬の筏舟（角材7本を組んだもの）



写真 17 シロサバフグの籠を作る
鐘崎の漁師



写真 18 あわびのしの作り方の説明(展示)

わからんことがあるし、それが面白いことに、ほかの人が潜っていくと、とれたりしてね。そこの石の色に似るんですよ。

ナマコを探す前に、糞（ふん）を見よといいます。だけど糞を見つけてもとれんときもあるしね。前日のが残っていたり、いろいろですよ。

まだしばらくは潜れるからこの仕事続けますけど、その前に磯が変わり果ててしまうんじゃないか、それが心配ですね。束子（たわし）で擦ったような岩肌ですから」



写真 19 鐘崎の海女さんたち
松尾美千代さん(左)と北川千里さん(右)



写真 20 岩屋の海女さんたち
本田チツヨさん(左)と伊藤やすのさん(右)

2) 岩屋で

北九州市若松区に漁村がある。岩屋という所、行政上は有毛（ありげ）という広い地区の一角である。国土地理院の地形図をひろげて目的地へ行く。途中で、蟹住（あまずみ）という地名の所がある。「蟹」とは、「海で魚貝をとり、藻塩を焼くことを業とする者。漁夫。」とあり、続いて、「海に入って貝、海藻を取る人」と「広辞苑」には記されている。蟹住という場所は、現在の海岸からは大分内陸に位置するが、このあたりは古くは海人、漁夫がいた所かも知れない。大小無数とってよいほどの溜池が散在する地域でもある。

伊藤やすのさん（大正12年《1923》生まれ）

「岩屋にも以前は海女も何人かいたんですけどね。ウニをとるとか、ガタ（干潟）つまり、磯でとるとか、浅い所で潜るとかね。私は去年（'07）までは潜ったですけど、もう歳が歳だからね。5年ぐらい前からは浅い所しか潜らなかったです。母が潜るのが上手だった。最盛期（昭和30年ごろまで）は、海女も30人はいたんです。

私なんか恥ずかしい話だけど、学校も6年までしかしていない。高等科へも行かず働きました。今日はどこどこへ行って潜ろうと相談して決めてね。白い晒木綿のシャツを着てね。お腰つけていました。潜っているときふわふわするけど、そのふわふわがフカのおどしになるんだ、と年寄りから言われました。

長年やっていると、耳を悪くするんです。若いころは耳栓つけなかったですしね。ムカデをアルコールにつけておいて黒くなったのを耳につけたり、ヨモギ、ここではフツというんだけど、このフツを揉んで柔らかくしたのを、耳につめたりしました。脱脂綿は水を通すから、ふとん綿を使いましたね」

本田チズヨさん（昭和8年《1933》生まれ）

「私も学校出てからずっとですね。初めごろは、浅い所だったから、お腰もいらなかったんですよ。そして沖の深い場所で潜る上海女（じょうあま、ベテランの海女）になったころは、もうウェットスーツが出まわっていましたね。

私はガムを噛んで、それで栓をしました。だけど、水の加減で硬くなるし、耳の穴にガムがくっついてね。ゴム粘土がいちばんよかったですよ。海女は耳をやられるから、みんな声が大きいです。

脇田（わいた）の方にも海女がいたんだけど、今は男ばかりらしいね。男の人（海士）は力があるから大きな石でも軽々とひっくり返します。貝とったあと、元へ戻さないから磯が荒れるばかりですよ。

メゾネという磯がありますけど。以前若いころは、そこで潜ると、あっちにもこっちにもアワビがついとったんです。岩の割れ目の奥の方なんかは、手突っ込んでとったとですよ。

海藻も取れるしね。その中でもテングサがよくとれたとですよ。それが近ごろは、買ってくれる人がおらんようになって、テングサをとる人がなくなってね。そうするとテングサが生えんです。岩屋のテングサはのり分が少ないといって安かったからね。

このヒジキは短いうちに包丁で切ってとります。てのひらぐらいの長さのを刈り取ってね。やおいですよ（柔らかいですよ）。

ウェットスーツが出まわる前は、磯へ行って、そこで磯シャツに着替えました。籠に入れて持って行きました。チャンチャン籠といってたけど、竹で編んだのでね。帰りはとった貝も持たんばならんし、磯着は濡れているしね。天秤棒で荷って帰ったですよ。途中で水の湧き出る所があつてね。その水で頭を洗い、体もきれいにし、そのあと磯着を洗いました。今はそこも水が出なくなっちゃったけどね」



写真 21
岩屋漁港の岸壁で
スルメを干す



写真 22
昔の共同井戸



写真 23
岩屋の漁村集落のた
たずまい、道が狭い

h



写真 24
岩屋口バス停から見下ろした遠見
の鼻の岩礁の様子



写真 25
響灘遠望、白島石油備蓄基地のある
男島（北九州市若松区）

民第ニ四号

福岡県文化財指定書

海女の用具

壹指

右を福岡県文化財指定する

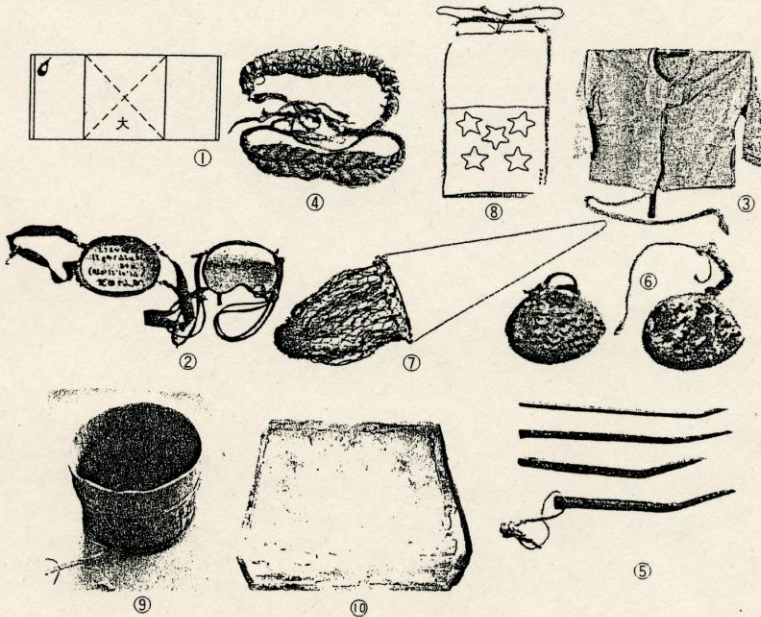
昭和二十五年十二月二十一日

福岡県教育委員会

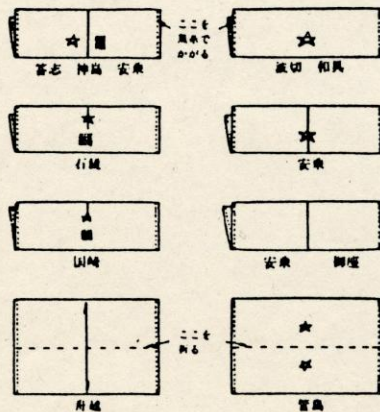


二、品名

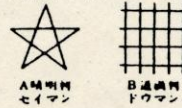
- 1 あたまかぶり
- 2 水めがね
- 3 いそじゆばん
- 4 はちこなわ
- 5 あわびがね
- 6 きりがい
- 7 あわびぶくろ
- 8 いそべこ
- 9 いそおけ
- 10 いそひばち



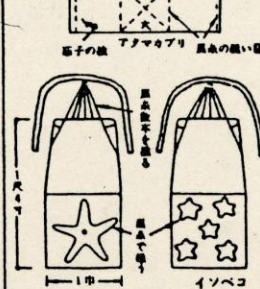
志摩の海女の磯手拭と呪符



志摩の海女が用いる呪符



磯手拭



筑前鐘崎の磯手拭と磯襦

響 灘

33° 59' 40"
10° 45' 0"



折尾(横間5号-2)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------------|-----------|-------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| ○ 市役所 | ◇ 税務署 | ▽ 消防署 | × 小・中学校 | ⊙ 発電所 | 卍 神社 | — 送電線 | □ 高塔 | △ 風車 | ⌒ 墓地 | △ 採鉱地 | ⋯ 水制 | ↑ 重要港 | 田 | ⌒ 桑畑 | ⌒ 竹林 | |
| ○ 町役場 | ⊕ 病院 | ⊕ 警察署 | ⊕ 高等学校 | ⊕ 工場 | 卍 寺院 | — 輸送管 | ○ 記念碑 | ☆ 灯台 | ⌒ 噴火口・噴気口 | △ 採石地 | ≡ せき | ↓ 地方港 | ⌒ 畑 | ⌒ 茶畑 | ⌒ 雑地 | |
| ○ 官公署 | ⊕ 保健所 | X 交番 | ✱ 森林管理署 | □ 図書館 | ⊕ 郵便局 | — 堤防 | ⌒ 煙突 | ∩ 城跡 | ⌒ 温泉・鉱泉 | ∩ 坑 | □ 滝 | ↓ 漁港 | ⌒ 果樹園 | ⌒ 荒地 | ⌒ 荒れ地 | |
| | | | △ 倉庫 | ⊕ 博物館 | ⊕ 美術館 | — 堤防 | △ 電波塔 | ⌒ 中絶名勝天然記念物 | ▨ 擁壁・ダム | — 水門 | ○ 渡し船・フェリー | ○ 渡り船・フェリー | ○ 渡り船・フェリー | ○ 渡り船・フェリー | ○ 渡り船・フェリー | ○ 渡り船・フェリー |